

日本からの3人のR I会長

日本から最初に出選された国際ロータリー（R I）会長は、東ヶ崎潔（とうがさききよし）氏、二人目が向笠廣次（むかさひろじ）氏、そして三番目が田中作次（たなかさくじ）氏です。

・東ヶ崎潔（1968－69 年度）



東ヶ崎氏は、東京ロータリークラブ（RC）の会員でした。R I 会長の時、「PARTICIPATE!（参加し敢行しよう!）」というテーマを掲げていますが、このテーマは英語で1語からなる歴代で最も短いテーマです。

東ヶ崎氏は、1895年9月24日にサンフランシスコで生まれ、1933年以降日本に移住しました。ジョージ・キヨシ・トガサキという名前の通りいわば日米両方を母国とした方でした。

当時の日本では、東ヶ崎氏の語学力と米国通という手腕は貴重なもので、米国経済使節団の通訳を務め、日米協会のために尽力し、日米文化や通商面で活躍しました。

また太平洋戦争中はジャパン・タイムズの編集局長として働き、両国の誤解や溝が生じるのを防ぐように努めました。その縁で水曜クラブに入会をしています。水曜クラブとは、大戦中軍部より解散を命じられていた日本のRCの会員たちが毎週水曜に開いていた例会のことです。1949年に戦後の日本における初めての国際奉仕団体として東京RCがR Iに復帰した時、東ヶ崎氏は会員として名を連ね、その後、日本のロータリーの復興、国際社会への復帰に努力しました。

一生を通じて弱者を励まし手を差し伸べることをモットーとしていました。

・向笠廣次（1982－83 年度）



向笠氏は、大分県の中津RCの会員でした。また国際的にも著名な精神科医でした。

向笠氏がR I 会長の時に掲げたのは、「MANKIND IS ONE（人類はひとつ）」というテーマでした。

彼は先の大戦直前に世界各国で行われた精神医学の調査に参加して、その結果、各国における人間の気質、あるいは性格の分類がその国の人口に対する比率は、ほとんど同一であるということを報じたそうです。

また自分の家族のルーツを考え、親、そしてそのまた親、と先祖を辿って行くと30代前には10億人という天文学的数字になることを知りました。この計算は子孫についても同様で、仮に我々が2人ずつ子供を持つとすれば、30代後には10億人になります。このことから、人類は疑いもなく一つの大きな家族であるという結論に至ったそうです。1982年のボカラトン国際協議会において「皆さん、左右にいるオジサンやイトコと初対面のあいさつをしてください」とスピーチをしたことは大変有名です。

・田中作次氏（2012－13 年度）



田中氏は、埼玉県八潮RCの会員です。30年ぶりに日本人として3人目のR I 会長となりました。

田中氏がRI 会長の時に掲げたテーマは、「PEACE THROUGH SERVICE（奉仕を通じて平和を）」でした。

田中氏は「自らの国の軍国主義の結末を経験した私たちの世代は、日本が平和を選ぶ大きな決断をした結果、目覚ましい経済発展を遂げていくのも目にしました」と述べています。

彼は「ロータリー世界平和フォーラム」をベルリン、ホノルル、広島で3か所で開催し、ロータリアンが平和について考える機会をつくりました。また、アフリカをはじめ世界の各地を積極的に訪問し、ロータリーの奉仕の成果について自分の目で確かめ、世界中のロータリアンに情報発信しました。